

私の留学体験記

広島県立湯来南高等学校 3年 守下 成（もりした せい）

留学期間 平成30年12月6日～平成30年12月19日（14日間）

留学先 Haverfordwest High VC School (Haverfordwest City), イギリス・ウェールズ

約2週間の短期留学は、それまでルーティン化した毎日に疑問を抱いていた私にとって、あまりに新鮮で刺激的でした。その2週間に経験した多種多様な体験の中でも、とりわけ強く私の心に残っているのは、ホストのジャクソンが所属している英国空軍士官候補生たちのイベントに参加したことです。その時のエピソードを少し紹介したいと思います。私は、空軍と聞いて、どこか堅苦しく重い印象を持っていました。ですが実際は違って、楽しく和やかな雰囲気の中でそのイベントは進行し、内容も面白く興味深いものばかりでした。中でもマシュマロとパスタでクリスマスツリーを作るという企画はとてもユニークでした。2チームに分かれてその出来栄を競うのですが、私のチームの女の子が、始まった途端にどこかへ行ってしまいました。そのため、しかたなく残り的人でマシュマロとパスタを組み合わせてクリスマスツリーを作り始めました。しばらく作っていると、どこかへ行ったあの女の子が黒いゴミ袋を持って帰ってきました。「なんで？」私はそう謎に思いました。するとその子は同じチームのジャクソンに必死に説明し始めました。「これを飾りに使おう」みたいな感じだったと思います。私は、ゴミ袋とか何でも使っているのか？と驚きました。すると、その子はまたどこかへ行ってしまいました。クリスマスツリー作成の途中経過はというと、散々なもので、とてもじゃないけどクリスマスツリーとは言えませんでした。私たちが改善に向けて迷っている最中、その子がまた戻ってきました。今度はトイレットペーパーを持って。なるほどね。マシュマロでベトベトになった手をこれで拭けというのか。私は勝手にそう思い、手を拭きました。クリスマスツリーが完成に近づいた時、その子は動き始めました。なんとトイレットペーパーをそのツリーに巻き始めたのです。その手があったか！私は1本取られた気持ちになったのと、勝手に手を拭いた罪悪感を持たずにはいられませんでした。マシュマロとパスタで作ったツリーを骨組みとして使い、それをメインではなく土台として使うという戦略に私は驚嘆しました。加えて、もともと私の体に巻き付けていたイルミネーション用のライトをそれに移して、ゴミ袋を切って、飾り付けの完成となりました。結果は、見事に勝つことが出来ました。斬新奇抜ともいえるその女の子の行動がチームに勝利をもたらしたことに、一見不条理に感じられる他者の考えの中にも、理路整然とした考えがあることに気付きました。急にゴミ袋やトイレットペーパーを持ってきたインパクト、何でもありの海外の文化を目の当たりにしたことだけではなく、私自身の思考の幅を広げることが出来たからこそ、この体験が私の心に強く残っているのではないかと考えます。

私は、留学を通して、言葉の壁に大きく悩みました。触れれば触れるほど大きくなるその壁を乗り越えることは容易ではありませんでした。伝えたいことの30%ないし50%くらいしか伝えられない現実に、もどかしさを強く感じました。英語の持つ力の大きさを体感し、日本語だけしか喋れないことの無力感を痛感しました。ですが、英語が話せることで広がる世界を体感でき、英語に対する価値観が大きく変わったこの経験は、私のこれからの人生において生き続け、記憶の中にも生き続けるでしょう。

この短期留学が充実したものになったのは、ホストファミリーとして受け入れてくださった方々、留学に携わってくださった先生方のサポートがあったからだと思います。ホストファミリーの方々は、ウェールズの文化や習慣を私たちに教えてくださいました。いつも優しく接し、申し訳ないくらいに私たちのために尽くしてくださったことは、感謝しても感謝しきれません。引率してくださった先生は、常に気を配り、私たちが伝えてほしいことを即座に英語に訳して伝えてくださいました。英語を話す先生の姿はとてがかっこよく、いつもに増して輝いて見えました。そんな先生の背中には、私に英語を話せることの魅力を示してくださったように思います。

最後になりますが、短期留学を終えて、私には、将来英語をペラペラに話せるようになって、友達や家族と海外旅行に行った時に頼られるようになりたい、という夢が出来ました。それが夢ではなく現実のものになるように、勉強に励んでいこうと思います。

本当にありがとうございました。

